

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	3	課題区分	C	令和7年3月18日			
横断的な課題		農業、林業、製造業などの稼ぐ力を高める					北アルプス地域振興局			
地域重点政策		1 農業、林業、製造業などの稼ぐ力を高める								
実施機関		北アルプス地域振興局			担当課	所属	林務課			
事業名		広葉樹林業のビジネス化事業				電話	0261-23-6522			
						E-mail	kitachi-rimmu@pref.nagano.lg.jp			
事業概要等	目的 (目指す姿)	地域産業の発展と森林整備の推進に向けた「広葉樹林業のビジネス化」の促進 これまでの活動でつながった、森林整備する側と木を使う側が連携して地域材利用の仕組みを構築していく支援を行い、地消地産につなげるとともに、新たなビジネスモデルを構築していく(地域材利用木工家0人→4人)								
	現状と課題	管内民有林の67%を占める主要な資源である広葉樹を活用した林業活動の活性化は、地域産業の健全な発展と森林整備の推進に寄与することが期待される一方、管内には広葉樹を活用したビジネスモデルが少ない。令和3年度から森林整備する者(川上側)と木を使う者(川下側)とが繋がり学ぶ機会を提供してきた。この流れをさら推し進め、広葉樹の活用をより推進していくために、川上側と川下側とが連携して、広葉樹資源の魅力を地域に伝達し、地域材の利用の仕組みを構築していく必要がある。								
	内容 (変更後の内容)	◆北アルプス広葉樹活用フォーラム等の開催 川上側と川下側とを繋ぐ人材を育成するために、研修会や先進地視察とあわせて、地域課題の認識と解決方法を探る広葉樹活用フォーラム等を開催する。◀11月:北アルプス森林組合▶開催は円卓会議(川上側、川下側で連携した会議)が主催していられるよう支援を行う ◆地域内製材品情報の一元化 川下側が地域材を購入しやすくするため、地域内の製材品情報を一元管理する仕組みづくりの支援を行う ◆北アルプス広葉樹製品化モデル事業 地域材の高付加価値化を目指すため、地域の広葉樹丸太を製材→天然乾燥→仕上げ人工乾燥→製品製作という水平連携の仕組みを構築し、モデル的に東京のふるさと回帰支援センターの机や木製トレイを製作するとともに、木材製品展示商談会(WOODコレクション)へ出店し、北アルプス産材のPRを行う。								
	事業期間	令和6年4月 ~ 令和7年3月								
事業費等	(単位:円)									
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額		備考			
	北アルプス広葉樹活用フォーラム等 円卓会議先進地視察		報償費(講師謝金)2名		70,950		@6,450円×5h=32,250円 @6,450円×6h=38,700円			
	製品化モデル事業		イベント出張費4名 モデル製品開発費 製品化試作試験出張費 モデル製品PR費		523,838		イベント等出張旅費:116,239円 需要費(木材購入費等):145,495円 役務費(製材費等):216,604円 使賃料(イベント出展料):45,500円			
	合 計				594,788					
指標及び達成状況	成果指標				目標値		成果		達成状況	
	広葉樹活用フォーラム等参加者の満足度(5段階中4以上)				70%		90%		○ 達成	
	製材品情報閲覧サイト				製作		未制作		● 一部達成	
	WOODコレクションにおける来場者数				100人		100人		○ 未達成	
	北アルプス広葉樹モデル製品製作者数				4		3			
事業実績・成果	◆広葉樹活用フォーラム等の開催(製材マルシェ) ○実績:令和6年11月10日(日) 10:00~15:00 北アルプス森林組合製材所 参加者60人 ○成果:円卓会議内での検討により、例年開催しているフォーラムでの外部講師を招いての講演会等、他地域の取組事例を聞くのではなく、地域の資源をより広く知ってもらうためのイベントにしたいとの意見があったため、実行委員会を作り企画した「製材マルシェ」を開催。当日は地域材の生産者~加工者~利用者まで約60名の参加があり、木材を丸太から板材に製材する工程の見学や、板材の即売会、商談等が行われた。アンケートからも満足度は目標を達成でき、参加者からの好意的な意見も多かった。 ◆地域内製材品情報の一元化 ○木工家等の地域材利用者が管内の林業事業体等の製材品情報を共有できるよう検討したが、情報データの管理方法や樹種、寸法規格、産地等の情報をどこまでまとめるかといったレベル合わせが難しく、実現に至らなかった。 ◆北アルプス広葉樹製品化モデル事業 ○実績:製品制作1品(広葉樹テーブル)、WOODコレクション出展参加【令和6年12月19日、20日 来場者数100人以上】 ○成果:北アルプス森林組合において地域のクリ材を使った打合せテーブルを制作。東京のふるさと回帰支援センターで使用してもらい相談者へPR。また、木製トレイの試作を国の研究機関に協力依頼に行った。樹種による厚さや硬さ等問題が多く完成には至らなかったが課題が見えてきた。東京ビックサイトで行われたWOODコレクションへ地域振興局として出展し、地域の木工作家が制作した製品や広葉樹の特徴等、地域の特性を来場者へPRした。									
	今後の方向性		研修会等を引き続き開催するなど、地域の広葉樹を活用する人材を育成していけるように情報を広く共有していく。また、製材マルシェは今年のような実行委員会形式の開催とし、県内外から幅広く来場いただけるよう支援していく。なお、製品情報の一元化については、フォーマット等の検討もしながら今後も引き続き取組んでいく。							